

FREE

沖縄で

人生を見つめなおす
ライフスタイルマガジン

2016年
第3号

春・花の香号

ひとやすみ



くつろぎたいむインタビュー
沖直未さん

・おきなわで・ひとやすみのコト・モノ・バシヨ
OISTとカフェ「Kaito+」

・ひとやすみのうちなーんちゅ体験ガイド
今帰仁の里「あいあい手づくりファーム」

Okinawa Life ending Stage syuukatsu fan club
宮古島・山口さんご家族／具志川・金城さんご夫妻

・終活カウンセラーいちえの「よりよくいきる」
小浜 一恵さん

・沖縄県メモリアル整備協会だより
メモリアルパークレポート／終活レポート

青い空、青い海に抱かれて
自分らしい人生の締めくくりを

オキナワンエンディング

ちゅ

うみ

美ら海



海洋散骨と永代供養のセットプラン

永代供養の場所は県内6カ所の
「おきなわ霊廟」からお選びいただけます。

宮古島

宮古島
メモリアルパーク

沖縄本島

名護やんばる
メモリアルパーク

石垣島

石垣
メモリアルパーク

大里

メモリアルパーク

具志川

メモリアルパーク

中城

メモリアルパーク

全国一律料金

お一人様総費用

96,960円 (税込)

(散骨費用、納骨料、彫刻料、永代供養料、管理料を含む)

その他の費用は一切必要ありません。

生前契約・ご納骨契約どちらでもご利用いただけ、
宗教、宗旨、宗派を問いません。

美ら海のぞむ やすらぎの丘

宮古島メモリアルパーク

沖縄県宮古島市平良字松原1290-2番地



名護 さくらの里で永遠のやすらぎ

やんばるメモリアルパーク

沖縄県名護市屋部728番地



お待たせしました!!

石垣メモリアルパーク今夏オープン



公益財団法人

沖縄県メモリアル整備協会

通話料無料



0120-202-869

ニライに

やすらぐ

沖縄供養

検索

沖 縄 で ひ と や す み

2016 年 春・花の香号

2016/2/1 発刊 通巻 3 号

表 紙

東村・慶佐次のマングローブ林近くにある観光農園「沖縄かぐや姫」は、園内に 100 品種のバラ園や 330 品種のハイビスカス園など、ほぼ年中、花が咲き乱れる観光農園。園内には、キャンプ場やコテージが整備されている。



特 集 くつろぎたいむインタビュー マジュンリッカ オーナー 沖直未さん

撮影：鬼丸昌範

CONTENTS

- 4～6 ・くつろぎたいむインタビュー
マジュンリッカ オーナー 沖直未さん
- 7 ・おきなわで・ひとやすみの的コト・モノ・バシヨ
O I S T とカフェ「K a i t o +」
- 8/9 ・ひとやすみのうちなーんちゅ体験ガイド
今帰仁の里「あいあい手づくりファーム」
- 10 ・沖縄 いろとりどり
咲き誇る「のぼたん」の花 - 沖縄かぐや姫
- 11/12 ・Okinawa Life ending Stage syuukatu fan club (owner's voice)
宮古島・山口さんご家族 / 具志川・金城さんご夫妻
- 13 ・終活カウンセラー いちえの「よりよく 生きる」
小浜 一恵さん
- 14/15 ・沖縄県メモリアル整備協会だより
メモリアルパークレポート / 終活レポート

企画／発行：公益財団法人 沖縄県メモリアル整備協会

【メモリアル終活支援センター】

〒 901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城 123 POP ビル 3 F

電話 098-996-1238 FAX 098-996-1239

制作／印刷：光文堂コミュニケーションズ株式会社

〒 901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城 577

電話 098-889-1131 FAX 098-835-6111



国道58号線を北上、読谷村に入りドコモショップの看板を目印に伊良皆の交差点を左折、県道6号線に入る。道沿いには、キロロの二人が卒業した読谷高校や沖繩の楽聖とも讃えられるアカインコのお宮様など、いろいろな興味深い場所もあるのだが、今日のところは我慢して6号線を残波岬方面に向かい、ずんずん車を走らせていく。

トリイステーションの鉄条網をはるかに過ぎ、右手に消防署、小学校を過ぎて高志保の交差点を直進、角の海邦銀行を過ぎるとすぐに「スパーまつだ」の看板。視線を下にずらすと、控え目に「マジュンリッカ」と書かれた小さな案内板がある。ここからは、案内板を頼りに住宅街の中をゆつくり進む。すると路地の

中ほどに、その古民家があった。

シーサーの乗った沖繩らしい門をくぐり、そこに気さくな笑顔で迎えてくれたのが、女優の沖直未さんだ。

ここは、東京での生活を切り上げ帰沖した沖さんが、1年と4か月前に始めた店。空き家だった民家を改造し、人任せにせず自分のイメージに合った店に仕上げた。

「お庭も、荒れていたのを自分で手を入れて、花を植えていったんです」と、愛おしそうに見るその先には、色とりどりの花々。真冬のこんな季節なのに、にこやかに咲き誇っている。

石畳を渡り、赤漆の大きなドアを開ける沖さん。白い壁と木の柱・梁を活かし、しつとりと落ち着いた店内。思ったよりも広い。正面にカウンターがあり、全体の印象としては、居酒屋や小料理屋というより趣味のいいカフェといった感じ。ただし、おじさんでも安心して入れるカフェだ。

「お身は隣の嘉手納なんだけど、読谷高校を卒業したんです。だから、周囲にはクラスメイトや先輩・後輩がたくさんいて、みんなで助けてくれるんです」と沖さん。

最初から読谷と決めていたわけではない、那覇にも場所を探していたという。「でも、二十歳過ぎで東京に出て、誰も知らない場所で張りつめて生きてきた

くつろぎたいむインタビュー

人と人とのつながりが温かい場所



Okinawa Life ending Stage
Kuturogi-time Interview

「私は、本当に厳しい世界に身を投じていたんだ…。」
その経験がもし役に立つなら、お店のスタッフだけでなく、ふるさとの夢ある若者たちを輝かせる仕事をしていきたい。



から、故郷にもどって、まだ知らない土地で始めたくはないな、と思ったんです」と話す。

高校卒業

後、地元のテレビ局でバイトをしていた沖さん―いや、当時はまだ本名の比嘉直美さん―だが、その頃は『裏方の仕事か、アナウンサーもいいな』と考え始めていた程度だった。そこに、局のスタッフからのひとこと。「アナウンサーになるんだったらアナウンサー学校を出ないとね」。

当時、アナウンサーになるための学



沖直未さん。嘉手納町出身
女優／株式会社コミュニケーション代表取締役
ポラテレビ小説「愛をひとつまみ」でデビュー後、テレビ
ドラマや舞台などで活躍。
2014年5月に読谷村に「マジュンリッカ」をオープン。



マジュンリッカ
オーナー

沖直未さん

校は県内ではなく、直美さんは、描き始めた夢にカタチを与えるために、東京にでることを決意。その時、局のスタッフがキー局のバイトも一緒に紹介してくれた。このことが、人生を大きく変えるきっかけとなっていった。

「本当に裏方のバイトです。お茶出しとか」と笑う。大物の芸能人にお茶を出すこともあったが、自分がその世界に足を踏み入れることなどもうどう考えてはいなかったという。しかし、そのうちに、局に出入りする芸能関係者から、デビューの誘いがかかるようになる。

「自分には無理」と、断り続けていた直美さんだが、ある時、オーディションを受ける決心をする。それがTBSの人気番組、昼帯の「ポラテレビ小説」だった。直美さんが受けたオーディションは、「愛をひとつまみ」という番組。もちろん主役だ。

直美さんは、初めて受けたオーディ



シヨンで合格、1981年、23歳という、遅めの女優デビューだった。

20年近く続いたこの番組では、萩尾みどりや樋口可南子、かとうかずこ、賀来千賀子などたくさんのお物女優がデビューしている。沖さんも、その後、傍目では「順調に」実力派女優としての道を歩んでいくことになる。

「でも、もしかしたらノリの悪い子って見られていたかもしれない」と、当時を振り返る沖さん。憧れ続けてつかなかったチャンスというわけではない。どこか心理的なテンポのずれがあったのだろう。その上、「愛をひとつまみ」ではスタッフみんなが主役として大事にしてくれた。それがほかの番組では、若手女優のひとり、というギャップに

戸惑いもあった。「覚悟が足りなくて、スタッフが呼びに来て控室からでなかったこともありました」という。

だが、それも周囲のプロたちとかかわる日々の中で、次第に女優として強く鍛えられていった。

その後、活躍の場をテレビから舞台へと移していった沖さんだが、50歳の声を聞いた頃から、徐々に東京での生活に息苦しさを感じ始めたという。

「色んなことがあって、父の葬儀にも出られなくて…」。

やがて、沖縄に帰ることを決意する。

「以前からお店をプロデュースしないか、という声はたくさんいただいていたんですけど、全然興味が湧かなかつたんです」と沖さん。ところが沖縄に帰る、と決めた時にお店を開くのもいいかも、と思い始める。故郷で、自分の好きな店なら、やる価値はある、と。そして、半年間、月に二日、帰沖してのお店探しが始まった。

「その間は、あきらめや孤独、もつと頑張れるんじゃないかっていう逡巡で、とても淋しかった」と話す沖さんだが、「でも、東京を離れて、具体的に開店の準備を始めたら、もうスケジュール通りにこなしていく、完全に仕事モード」だった。

そして2014年5月、「マジュン

リッカ」オープン。地元の方々に知ってもらいたい、地元で根付くことを優先したい、という想いから「特に宣伝もしなかった」という沖さんだが、「たまたまお店に来ていただいた方が、ブログやSNSにかきこんでくださったことがきっかけで、徐々に観光の方が増えますよ」とネットの威力にビックリ。

「地元の方々と、他府県から移住していらした皆さん、そして観光客の皆さんが、垣根なく楽しんでいただいています」と笑顔を見せる。

さて、今年5月には、オープン2年目。経営も安定してきた。そろそろ、次のステージに進んでもいいのでは、と考える沖さん。「もちろん、女優の仕事も続けますし、それと、芸能界を目指す若い人たちの手助けをするような仕事もしたいです」と話す。

若者たちの夢、「厳しい世界」で活躍の場を切り開くためには、自分の経験が役に立つのではないか。沖さんからいただいた「株式会社コミューン代表取締役」という名刺からも、その決意が強く伝わった。



マジュンリッカ

電話：

050-5571-7475 (予約)
098-989-8333 (お問い合わせ)

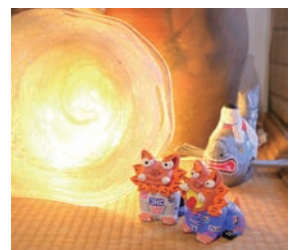
営業時間：17:30～23:30

※ラストオーダー 22:45

定休日：月曜日

住所：沖縄県中頭郡読谷村字高志保 122

※駐車場 5台



沖縄科学技術大学院大学 <http://www.oist.jp/ja>

世界最先端の「知」に触れる

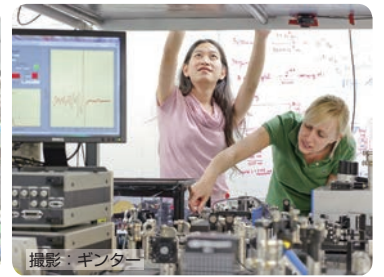
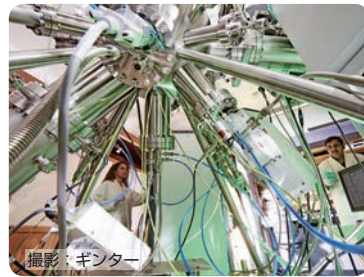
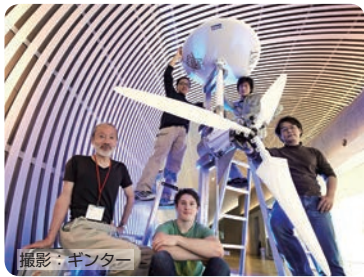
沖縄科学技術大学院大学。うちなーんちゅは、英語の略語で「オイスト」とか、省略して科学技術大学院大学（ほとんど省略になっていませんが）と呼んでいます。

開学当初は、最先端の科学・技術を研究するにあつてなかなか近寄りがたい感じを覚えていましたが、最近では、沖縄ならではの研究（もちろんたくさん）の研究テーマの中の一部です）が新聞に盛んに取り上げられたり、なによりオープンキャンパスや子どもたちの学校見学に付き合ったりして、だんだん身近な存在になってきています。

ところで、OISTが見学自由だつて知ってましたか。公開スペースであれば、受付に申し込むだけで、誰でも自由に見学できるし、もしガイドが必要なら、事前に申し込めばオーケーですよ。



ちょっと・ぶんかてき



写真提供：OIST

おきなわで・ひとやすみの ｺﾄ・ﾓﾉ・ﾊｼﾞョ

そんじょそこらの沖縄ファンじゃないよ！ うちら重症の「沖縄病」にかかっているんだから！ というみなさんに、地元視点、いやうちなーんちゅでも知らない情報を提供！

OIST 内のセンター棟C階にあるカフェ「カイトプラス」って、だれでも入れるって知ってましたか。学校見学の後は、ぜひ、お店に寄って、美味しい料理を楽しんでください。特にパンが充実していて、外国から来た研究者や学生が大多数を占めることから、ヨーロッパ風の本格的なパンが楽しめます。カイトプラスで出している野菜やハム・ソーセージ類は、運営会社の農業生産法人(株)クックソニアが中心となっている「やんばる畑人プロジェクト」が生産した旬のもの。研究者や学生から絶大な支持を受けているようです。なお、駐車場の場所はあらかじめホームページで確認を！



Yanbaru Harusaa's Table Kaito+

ヤンバル・ハルサーズ・テーブル・カイトプラス



<https://groups.oist.jp/ja/cafe>

沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919-1
営業時間：09:00～17:00 (ランチ 11:00～14:00)
定休日：日曜日 年末年始 (12月29日～1月3日)
※土曜日・祝日営業しております。(11:00～16:00)

●ちょっと・ひとやすみ

あいあい手づくりファーム

農業生産法人 (株)あいあいファーム

<http://happy-aiiaifarm.com/>

廃校を活用した広々とした、農と食の体験型学習施設が、あいあい手づくりファーム。

パン作りやソーセージ作り、ゆし豆腐作りなど、親子と一緒に、楽しい時間を過ごすことができる。



ひとやすみの・うちなーんちゅ体験ガイド



「私、このパンの大ファンだったんです。名護からドライブがてら通っては、買って帰ってました」と語るのは、あいあい『手づくり』ファームの原さおりさん。現在、レストラン主任の原さんは、あいあいファームに勤めて1年余り。ホテルマンだった原さんがある日、何の気なしにネットサーフィンをしていると、そこに、あいあいファームの募集情報。「あ、あのパンのお店だ!」と、一も二もなく応募したのだ。

あいあい手づくりファームは、県内でも珍しい、廃校になった小学校をリノベーションした体験型観光施設。農業収穫体験や天然酵母のパン作り、無着色のソーセージ作り、ゆし豆腐作りなど、様々な体験学習を提供している。さらに施設内にはレストランや直売所、宿泊施設もあり、じっくりと腰を据えて農業に関わる様々な体験ができる。

ところで、その後、ファームに勤めはじめた原さんは、いろいろなことに驚くことになる。

夜、裏庭をゆったりと揺れ動く光は蛍。とっくり木綿の大木は驚くほど鮮やかなピンクの花を咲かせ、その蜜を自当てに飛ぶ小さなコウモリ。大きく広がった夜空に、くっきりと瞬く星々。教室を半分に区切ってリノベーションした客室の驚くほどの広さ、天井の高さ。なにもかもが新鮮な驚きだった。原さんが大好きだというパンも、その後、種類もさらに増え、パン好きにはたまらない場所となっている。

さて、あいあいファームの特徴はといえば、廃校を活用した広々とした空間はもちろ





[あいあい手づくりファームの体験メニュー]

- ・天然酵母のパン
- ・無着色ソーセージ
- ・玄米麴の味噌づくり
- ・ゆし豆腐&島豆腐
- ・野菜の無添加ジャム
- ・塩麹&ぬか漬
- ・酵素ジュース
- ・土づくり・たい肥
- ・家庭菜園&寄せ植え教室
- ・ハーブ栽培教室
- ・農業体験
- ・自社農場での収穫体験
- ・麵からつくる沖縄そば
- ・ヘルシーお菓子クッキング
- ・etc...

〒905-0412 沖縄県国頭郡今帰仁村湧川 369 TEL:0980-51-5111



宿泊施設



宅に帰って、子どもたちがお手伝いを積極的に行ってくれるようになりましたとか、子どもたちに好き嫌いが無くなりましたっというようなお声をいただくたびに、「本当にうれしい」と笑顔を見せる原さんだった。

んだが、施設周辺に広がる自社農場や畜舎で育てた有機野菜や畜産物を、施設内のレストランで出している他、生鮮や加工食品として直売所でも販売、さらにグループ企業の(株)アメニティが県内で展開しているレストラン「だいこんの花」などでも提供していること。

実は、そもそものきっかけが、このだいこんの花だった。だいこんの花は、無農薬有機野菜を中心とした自然食バイキングで注目を集めていたが、その頃は、有機無農薬野菜は供給先が少なく、安定的な調達に苦労していた。そこで、「だったら、自分たちで農業をやろう」と2009年に立ち上げたのが、ここ、「農業生産法人(株)あいあいファーム」というわけだった。

立ち上げ以来、施設や農場も充実し、利用者もどんどん増えている。特に、宿泊と合わせての体験学習が人気だ。「たべものづくりの体験学習、例えばソーセージ作りとかを体験された後、ご自宅に帰って、子どもたちがお手伝いを積極的に行ってくれるようになりましたとか、子どもたちに好き嫌いが無くなりましたっというようなお声をいただくたびに、「本当にうれしい」と笑顔を見せる原さんだった。

沖縄・いろいろふじら

ヤンバルの野山に自生するノボタン。沖縄ではあちこちで咲いているので、特に珍しくはないですが、別品種で中南米原産のシコンノボタンというのがあるようです。

違いは、ノボタンはおしべが黄色がかったいて、シコンノボタンは、薄紫だとか。写真は、おしべが黄色いので、沖縄に自生するノボタンですね（たぶん…）。

栽培しやすいことから、鉢植えを求める方も多いようで、花が咲くのは初秋から初冬にかけて。ちよつと今が、見頃です。

東村・沖縄かくや姫にて撮影





ロケーションの良さがとても気に入っているという
えみさん（左）と七重さん。

東京都出身の山口えみさん、七重さん姉妹は、現在91歳になるお母様と3人で暮らししている。元々は19年前に妹の七重さんが宮古島へ移住し、4年半前に姉のえみさんがお母様を連れてやってきた。「母は高齢なので故郷の東京を出たがらなかったけど、『元気なうちに宮古の暮らしを楽しんでもいいかも』と考えが変わって。こちらに来てからは環境も空気もいいからか、すごく元気になって。『来て良かったわ』って言うってくれるからそれが本当によかった」と、えみさんは嬉しそうに話す。

宮古島での暮らしを家族水入らずで楽しんでいる山口

owner's voice — ご契約者様の声 —



Okinawa Life ending Stage
syuukatu fan club

宮古島市在住の
山口えみ・七重さんご家族
沖縄在住 4年半、19年

自然に囲まれた宮古島は “家族団らん”の場所

先祖や家族を大切に思い決めた永代供養墓への改葬

さんたち。しかし東京には、祖父母や親戚、そして父親と生後間もなく亡くなった兄が眠る大きなお墓があった。「私たちが亡くなったなら、このお墓をみる人がいなくなる。いつかはどうかしない」と。そう漠然と考えていた二人は、たまたまメモリアルパークのCMをテレビで見かけ永代供養墓に興味を持つように。しばらくして宮古島にも開園することを知り、とりあえず話を聞こうと事務所を訪れた。「宮古でお墓を設けるなら、父と兄、そして将来的に母と自分たちが入れるくらいの大きさで十分」。そう考えていたえみさんと七重さんにとって、樹木葬「花想」の小さな墓石は、とても理想的なものだった。「こじんまりとしていて、見た瞬間にすごく気に入っちゃったの。『家族みんなでこたつに入っているみたいでいいね』って」と、七重さんは振り返る。

お母様も快諾し、二人は山口家の家族5人が入るための墓を購入。祖父母のお骨は、奈良に住む親戚が預かってくれることになった。「祖父母の故郷が奈良なので帰してあげたいなと思って。ご先祖様は大切にしないと」と、えみさん。「奈良の親戚一家とは、宮古に移住してからよく連絡をとるようになって遊びにも来てくれます。移住していなかったらお墓の相談もしていなかったら、移住から、不思議ですよね」。

改葬は想像していたよりも大変で、時間も労力もかかったが「それはそれでいい経験になった」と二人は笑う。「ここは明るくて景色がいいし、市街地から近いから気軽に参りができますしね」。青く輝く海を望みながら、墓前に手を合わすえみさんと七重さんは、まるで家族の団らんを楽しんでいるようだった。



金城辰也様・圭子様ご夫妻

「母が東恩納の出身で、ここ具志川で教鞭をとっていたんです」と話すのは、神戸市垂水区にお住いの金城辰也さん。ご両親のお墓の改葬先を考えた時、真つ先に思い浮かんだのがそのことだった。「嘉手納には父方の墓もあったんですが、あいにく基地の中になってしまつて」と辰也さん。合わせて、お母様が生徒や地域の方へずいぶん慕われていたことや、親戚が多いことが改葬の地を具志川メモリアルパークに選んだ理由だった。

owner's voice — ご契約者様の声 —



Okinawa Life ending Stage
syuukatu fan club

兵庫在住の金城様ご夫妻。
旦那様のご尊父のお墓を故郷
沖縄に改葬するのに合わせ
て、ご夫妻の生前合祀を契約

やっぱり最期まで、夫婦一緒 かな？と、ご夫婦で生前契約

幼いころ枕元で聞いた“うちなーぐち”が、自分自身と父祖の地を結びつける縁となった。

ら、沖縄がふるさと、というイメージはあったという。とはいえ、それは遠い父祖の地としてのイメージであり、自身身に結びついたものではなかった。

それが大きく変わったのが阪神淡路大震災。何もかも一遍で壊れてしまったのを見た時、自分自身のルーツについて強い興味が湧いたという。「それで沖縄のことを調べ始めるようになったんです」と話す辰也さん、沖縄に何度も足を運び、図書館や古本屋通いが趣味といえるようになっていった。

さて、こうしてルーツの沖縄に眠りの地を選んだ辰也さんだが、圭子さんは、というと…

「私は神戸生まれですと神戸育ち。神戸から出たこともなかった」という圭子さんだが、「でも、やっぱり結局、ずっと夫婦一緒かな、と思つて」と、ご夫妻揃つての生前契約になった。



具志川メモリアルパークの合同供養法要

けた答えは、やはり沖縄だった。

さらに、「親たちだけ沖縄に置いておくのは、無責任なのかもな」と考えた辰也さんは、ご自分の生前合祀契約を選んだ。

「父の両親も神戸にいて、幼いころからずっと祖母の“うちなーぐち”を聞いて育つたんです」と辰也さん。だか



終活カウンセラーいちえの よりよくい生きる



終活っていうと、なんだか、クラージ、カタージイイメージ。

でも本当は、違うんです。終活って、走るのをちょっとやめて、自分のフォームだとか、体力だとか、あるいは走る目的なんかを見つめなおす、人生をよりよく生きるための活動なんです。



みなさん。こんにちは。小浜一恵です。
さて、早速ですが以前のコラムにて、「終活は手続きだけではない。想いを形にする」ということをお話させて頂きました。今回は『終活疲れ』についてお話したいと思います。

私の終活ライブで知り合い、エンディングノートのサポートを依頼して下さったAさん。70代のまだまだ元気な女性の方です。

旦那様に先立たれ、ご自身で家作の管理をされています。最初は戸惑った管理の仕事もだんだんと慣れ、ふと今後のことを思ったときに終活を知り、残されるひとり娘のことが気にかかってきました。

まずは旦那様の遺品整理にご自身の『断捨離』と進み、エンディングノートを購入し、自分で記入できることから取り組み、それはそれは感心するほどの勢いで明るく取り組んでおりました。

ような、疲れたような複雑な表情で私におっしゃいました。

『どうなさったんですか？』と、聞くものの……実はよくあるケースなのです。

『私が一生懸命、心配りをしているのに娘ったら、ちっとも関心を持ってくれないの』と、憤慨。けど、その目の奥はなんだか寂しそうです。『何のためにこんなことをしてるんだろ。』という感情が溢れ、様々なことが億劫になってしまった……という経緯。

うんうん…終活だけではなく、日常にもよくあるような…。

しかし、お嬢さんの反応も理解できるので、だって、お母様にはまだまだ元気でいてほしいし、いなくなるなんて考えたくもないし、兄弟がいなくてひとり娘の彼女にとっては向き合いたくない、いつか来る現実なんです。けど、カウンセラーの私としては、だからこそ向き合えるきっかけになってほしい。

よりよく生きるスタートになってほしい…と、今がチャンスだと思ったのです。

Aさんとゆっくり時間をかけてお話を聞いて、娘さんと私と3人でお茶をすることにしました。Aさんのご自宅でAさんと娘さんとお茶をしながらのミニ終活カフェ。娘さんの関心はミュージシャンである私が何故、終活という活動に携わろうと思ったのか…に興味を持たれ、そこから私のこれまでのストーリーを話し、簡単に終活とは…のお話をさせて頂きました。いろんな質問をして下さる娘さんは、何故、お母様が終活をしようと思ったのか…に理解をし始め、心を開いてきた様子でした。また、まっすぐな感想を話してくださり、私も若い世代の視点からの終活を聞くことができました。

Aさん自身も何故終活をしようと思ったのか…の原点に気づくことができたようです。終活をきっかけに娘さんと向き合える時間が欲しかったAさん。ところが、自分のことよりも娘さんの気持ちがどこに関心があるか…に感情がフォーカスし、苛立ち、失望しかけた終活ストーリー。

けど、娘さんと改めてお父様を亡くされたときの互いの気持ちを話し、そしてお互いのこれからの生き方をポツポツと話し合えるようになっていました。娘さんもエンディングノートがほしいとおっしゃったので、私からプレゼントさせて頂きました。

『お母さんと一緒に私も書いてみる！』の言葉に、『あなたはまだ早い！』と慌てるAさん。とても微笑ましい光景でした。

よかったですよ。あなただけのストーリー。終活とはよりよく生きるための活動です。

小浜一恵 終活上級カウンセラー／終活カウンセラー協会認定エンディングノート書き方指導講師

小浜一恵さんへの終活サポート・カウンセリング・ワーク・セミナーなどのお問い合わせは
メモリアル終活支援センター 電話 0120-202-869 へお気軽にお電話ください。

メモリアルパークレポート

名護やんばるメモリアルパーク
第二期分譲開始しましたー2015/12/25

2014年7月にオープンした名護やんばるメモリアルパークは、沖縄本島北部で唯一の本格的な管理型公園墓地であることと名護市内から車で5分というアクセスの良さから、地元の皆様から高い評価をいただいています。

2015年12月25日、そのやんばるメモリアルパークで第二期145区画が分譲開始されました。

お問合せは0120-202-869までどうぞ。

<http://www.oki-memorial.org/reien/yanbaru-nago-mp.html>



名護やんばるメモリアルパークから名護湾を望む



第二期造成工事/永代供養・納骨堂「おきなわ霊廟」安全祈願祭の様相 - 2015/8/27



宮古島メモリアルパークで
第1回合同納骨式 - 2015/12/25

2014年12月に落成した宮古島メモリアルパーク内の「おきなわ霊廟」にて、初の合同納骨式・合同供養祭が開催されました。

式では、一年の間、御預かり安置供養させていただきました故人とのお別れに、涙を流される方も数多くいらっしゃいました。

葬送の形は変われど、供養を続けて行く気持ちに変わりはありません。合同供養法要は毎月開催されます。ぜひ、ご参加くださいます様お待ちしております。

位牌供養が注目を集めています。

終活の取り組みの大切な要素として、ご先祖さまからうけついで位牌の整理があります。



尊人の礎

「こどもたちに、同じ難儀はさせたくない」。終活をお考え中の皆様が、くちぐちに話されるのがこのこと。

特に、先祖代々のお位牌の継承は頭の痛い問題です。

例えば、お子さんたちが他府県でくらし、お位牌を継ぐ者がいない、古い仏壇ですと関係のわからなくなった方の位牌がある。

この解決のためにご用意しているのがお位牌の「お焚き上げ永代供養」。お位牌をお焚き上げし、位牌供養塔にお納めするものです。一方、『お焚き上げたあとで、親戚から何かいわれないか心配』という方もいらっしゃいます。そんな心配にお応えするのが「30年安置永代供養」。お位牌を位牌供養堂に30年ご安置した後でお焚き上げ供養します。



大里メモリアルパーク内の位牌供養堂

各メモリアルパークの位牌供養塔



中城メモリアルパーク 具志川メモリアルパーク 大里メモリアルパーク

【ケース1】 那覇市在住の50代/女性

状況：先祖代々のお位牌の中にお母様のご位牌があり、お父様は健在。お母様以外は33年忌を過ぎているのでお焚き上げ供養を契約し、お母様のお位牌のみトートナーに残し、お父様がその時を迎えた時にお母様と一緒にしてさしあげたい由。30年安置供養を契約。

お客様の声：一人娘で位牌を継承できずに困っていました。先に母の位牌を供養してしまっは父も悲しみ、また私自身も元気な内は両親の位牌を見たいと考えていたので、希望に叶う供養方法があって良かったです。父も一安心できたからか、以前より元気になりました。

【ケース2】 那覇市在住の40代/男性

状況：ご両親のお位牌あり。お位牌を見るべきご長兄様が、放棄を希望。ご長兄には高校生のご子息がおり、今は判断できないがいずれ祖父母のお位牌を引き取りたいと言った場合の為に30年安置を契約（弟さんからの相談）。

お客様の声：今はまだ若く判断できずにいるが、本人の意思も確認せず、お焚き上げ供養するのに抵抗があった。甥が判断できる年齢になった時に説明をし、理解してもらいたい。もし引き取らなくても安置期間終了後は永代供養されるので安心できる。

第3回おきなわ終活フェア開催 - 2015/10/17・18



昨年10月17日と18日の2日間、「おきなわ終活フェア」が開催されました。

初回と2回目は那覇市の沖縄タイムスビルをお借りして開催しましたが、中北部にお住いの皆様からもっと近いところで開催してほしいという声が多く、3回目となる今回は、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター会議棟をお借りすることになりま

した。

フェアでは、お墓のことや葬儀・相



続のこと、そしてメモリアルノート書き方など、盛りだくさんの内容で、オープンの10時には、たくさんの方が行列を作ってお待ちくださいました。

よりよく生きる 終活はじめませんか。



「私達は、お客様の『終活』をサポートし、
お墓・ご供養のお悩みを解決します。」

永代供養・納骨堂

おきなわ霊廟

お墓の悩みを安心に変える。
メモリアルパークの納骨堂
『おきなわ霊廟』での永代供養



永代供養・海洋葬

美ら海

永代供養と海洋葬の
コラボレーション

墓じまい

あんしんサポート10

墓のお悩み No.1。
どうする先祖のお墓？
ご先祖や家族の供養についての
悩みや不安にお応えします。



お位牌供養

位牌供養堂

大切なご先祖のお位牌を
永代供養します。
ご先祖や家族の供養についての
悩みや不安を解消します。

沖縄本島から離島エリアまで 安心のメモリアルネットワーク



県内最大の管理型公園墓地
中城メモリアルパーク
沖縄県中頭郡中城村字当間340番地



南城市 花とみどりの公園墓地
大里メモリアルパーク
沖縄県南城市大里字大城1260番地

名護 さくらの里で永遠のやすらぎ
やんばるメモリアルパーク
沖縄県名護市屋部728番地



うるま市 家族みんなが快適な管理型公園墓地
具志川メモリアルパーク
沖縄県うるま市具志川1801-1番地



美ら海のそむ やすらぎの丘
宮古島メモリアルパーク
沖縄県宮古島市平良字松原1290-2番地



八重山 太陽と緑にいだかれて
石垣メモリアルパーク
沖縄県石垣市字登野城2241-79番地



公益財団法人 沖縄県メモリアル整備協会 メモリアル終活支援センター

メモリアル終活支援センター 受付時間 / 9:00~17:00

0120-202-869



沖縄供養

検索

<http://www.oki-memorial.org>

